

氏名 もい めん りん MOI MENG LING (36歳)

現職 国立大学法人長崎大学 熱帯医学研究所 准教授

熱帯病デング熱ワクチンと治療開発のための評価系構築の研究

業績

デング熱は、世界的に年間約 4 億人が感染しているが、未だに治療薬・ワクチンが開発されていない。デング熱ワクチン・治療剤の開発には、病態形成の解明と有効性・安全性評価系の確立が最も重要である。

氏は、ワクチン・治療剤評価が可能なシステムを実現するため、ヒト型免疫レセプターFcγR 発現細胞による新規検査法と、新世界ザルマーモセットを用いた疾病モデルを国内外の研究機関との共同研究で開発した。更に、病態形成の基盤となる免疫学的機序を明らかにするため、氏は独自に開発した新規検査法とモデル動物を組み合わせた方法によりその機序を明らかにし、新治療薬開発のための基盤を確立した。

本研究成果により、ワクチンの実用化及び新規治療薬開発を促進させることが大いに期待される。

主要論文：「Detection of higher levels of dengue viremia using FcγR-expressing BHK-21 cells than FcγR-negative cells in secondary infection but not in primary infection」 Journal of Infectious Diseases, p1405~1414, 2011 年 5 月発表

「Demonstration of marmosets (*Callithrix jacchus*) as non-human primate model for secondary dengue virus infection: high levels of viremia and serotype cross-reactive antibody responses consistent with secondary infection of humans」 Journal of General Virology, p591~600, 2014 年 3 月発表